

岩国基地における機種更新等について（検証結果）

令和6年8月

照会に対する国の回答内容等を踏まえ、航空機騒音や安全性等の面から、基地周辺住民の生活環境への影響について、次のとおり整理しました。

1 運用

- 岩国基地における米海兵隊及び米海軍の航空機の総機数は、現在よりも10機程度減少する。
- 今回機種更新等が行われる部隊について、任務や飛行経路等に変更はなく、日々の運用に大きな変更は生じないと見込まれている。

2 航空機騒音・環境への影響

- 今回の機種更新等において、
 - ・ これまでの岩国基地周辺の飛行経路に変更はなく、日々の運用が大きく変わるものではないこと
 - ・ 岩国基地における米海兵隊及び米海軍の航空機の総機数が10機程度減少し、一日の標準飛行回数が今より増えることは見込まれていないことなどから、岩国基地周辺への騒音状況について、現在より拡がらないと見込まれている。
- 国は、引き続き、訓練移転の実施による訓練活動の影響の軽減に取り組むとともに、その他の影響緩和措置についても、誠実に対応していくとしている。
- 今回の機種更新等に伴い、岩国基地周辺における大気や水質に大きな影響が及ぶことはなく、特段の変化が生ずるものではないと見込まれている。

3 安全性

【F-35C】

- F-35Cについては、米国政府が、その安全性や信頼性を確認した上で量産しており、国においても、その運用について、これまで以上に、安全管理に万全を期すよう、米側に求めていくとしている。

【CMV-22】

- オスプレイについては、
 - ・ 米国政府自身が開発段階で安全性・信頼性を確認していることに加え、日本政府としても独自に安全性を確認していること
 - ・ 令和5年11月に屋久島沖で発生した墜落事故については、事故原因に対応した安全対策を講じることによって、同種の不具合による事故を予防・対処することが可能であり、本年3月の運用再開以降、トラブル等の発生もなく、安全に飛行を行ってきていることなどから、国として、オスプレイの機体の安全性について問題ないとしている。

- CMV-22については、海兵隊のMV-22や空軍のCV-22と機体構造及び基本性能が同一であり、MV-22及びCV-22について確認された機体の安全性は、CMV-22にも該当する。
- 国において、CMV-22に係るクラスAの事故の発生は確認されていない。

【その他】

- 米側は、パイロットや整備員について、これまでも訓練や教育を通じて各種技能の維持・向上を図ってきたところであるが、引き続き、しっかりと教育を行い、地元を配慮して安全に運用していくとしている。
- 国は、機体の安全性はもとより、地域住民の生活に対して、安全をはじめとして最大限の配慮がなされることが重要と認識しており、今後とも、米軍機の運用において、より一層、これまで以上に、安全管理に万全を期すよう、米側に対し、累次の機会に求めていくとしている。

《検証結果》

以上から、このたびの岩国基地における機種更新等については、基地周辺住民の生活環境に大きな影響を与えるものではないと考えられる。